

ビザ A (V)

【セクター】 クレジットカード

信買

【市場】 NYSE

信売

【企業概要】

クレジットカードやデビットカード向けに世界最大規模の決済ネットワーク「VisaNet」を展開。取扱高ではビザとマスターカードが世界的な2強となっています（中国市場を独占する「中国銀聯（UnionPay）」を除いたベース）。ビザとマスターカードはアメリカン エクスプレスなどカードの発行も手がけるような企業とは異なり、カード自体の発行や信用供与は行っていません。ビザは同社の決済ネットワークを銀行などのカード発行会社が利用した際に、手数料を受け取っています。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

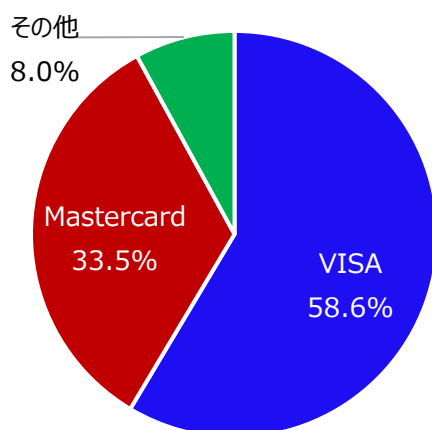
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.9期	24,105	12,896	6.42	1.34	17.9	37.5	45.3
22.9期	29,310	15,940	8.08	1.58	17.6	44.1	41.6
23.9期（予）	32,573	17,941	8.62	1.80	19.5	46.7	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

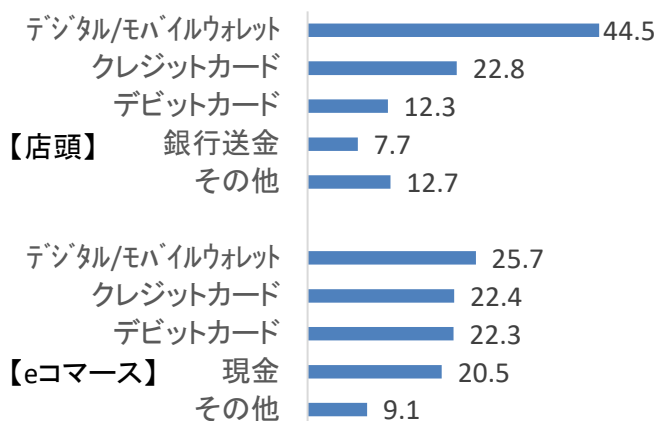
【主要指標】

総取扱高：市場シェア（2021年、UnionPayを除く）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

世界の店頭とeコマースの決済手段（%）



（出所）「World Payments Report 2021」のデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

キャッシュレス化や世界的な中間所得層の増加といった構造的な成長要因が追い風となり、世界のカード決済市場は成長が続いています。新規参入には新たに世界規模の決済ネットワークを構築しなくてはならないため、今後もビザやマスターカードなどが勢力を維持できるとみられます。一方、新興フィンテック企業によるデジタルウォレット、モバイルウォレットが台頭しています。これらの新しい決済方法では、ビザやマスターカードの決済ネットワークを利用してパートナーとなる場合と、事業者間の決済ネットワークやACH（銀行のネットワークを利用する決済）などの決済ネットワークを利用するため、ビザやマスターカードにとって競合となる場合もあります。今後の成長にどの程度の影響が出るか、市場では注視しているところです。

【見通し・注目点】

4-6月期の売上と調整後EPSは市場予想を上回りました。旅行や外出に対する消費者の力強い需要を支えに、総決済額は前年同期比9%増となりました。1-3月期の同10%増よりはやや低下したものの、市場予想を上振れました。そのうち、米国の決済額が同6%増と安定しており、クロスボーダー決済額は同17%増と堅調でした。経営陣は、4-6月期の傾向は7-9月も続く見通しだとし、特に「旅行の勢いは続く」と確信しているとコメントしました。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。